イギリス留学と社会保障研究

堀　　勝　洋

私は1970年7月から1972年7月までの2年間イギリスに留学して，社会保障について研究した。留学先は社会保障研究で世界的に有名なLSE（London School of Economics and Political Science）であり，これはロンドン大学の1つのカレッジである。LSEは，ウエッブ夫妻等が，当初ソーシャルワーカー等の養成施設として設立したものであると記憶している。

LSEでは，最初の1年間research fee studentとして，所得再分配の研究をした。指導教官（tutor）はエーブルスミス（B. Abel-Smith）教授であり，2週間に1回小論文を書き，同教授に1時間面接してその小論文についてコメントしてもらうというtutorialのシステムを経験した。エーブルスミス教授は"The Hospitals 1800-1948"（多田羅浩三他訳『英国の病院と医療 百年のあゆみ 1800-1948』）という名著を書かれた医療の専門家であるとともに，ティトマス（R.M. Titmuss）教授とともに，イギリスの労働党のブレーンとして1950年代から1960年代にかけて同党の所得比例年金等の立案にも加わった，世界的にも著名な社会保障学者である。同教授はまた，貧困の再発見で有名な"The poor and the poorest"をタウンゼンド（P. Townsend）教授とともに著し，ILOが1984年に出版した"Into the twenty-first century : The development of social security"の起草者でもある。

research fee studentは大学院（post-graduate）扱いであり，私はLSEの社会政策・行政学部（Department of Social Policy and Administration）の教師の研究会で日英の社会保障の比較について報告する機会を与えられ，強い関心をもって迎えられたことを記憶している。

2年目はマスターコースに進み，現在でも活躍しているMr. グレネスター（Glennester）などによる各種の講義に出席した。ゼミはMissサンズベリ（Sainsbury），論文（所得再分配）の指導教員はMissネヴィット（Nevitt）だったと記憶している。渡英して大学の授業が始まる前まで（1970年7月～9月），ケンブリッジのベル・スクールという語学学校で英語を学んだにもかかわらず，早口の講義がなかなか聞き取れなくて苦労をした。

留学中，同時期LSEにおられた明治学院大学の三和治教授と知り合いになった。また，小山路男元社会保障研究所長（当時上智大学教授）や重田信一氏（当時明治学院大学教授）などが訪英されて，その施設見学や官庁訪問に通訳として案内したことを覚えている。留学後，修士論文を翻訳したものを，厚生省年金局企画課監修『年金時報』の第30号（1975年）に，「所得再分配研究の方法について」という題で載せてもらった。

私はイギリスに留学したこともあり，イギリスの社会保障の動きには関心をもっている。イギリスの社会保障について論文を書いたこともある（「年金制度」社会保障研究所編『イギリスの社会保障』東京大学出版会，1987年，「イギリスの年金制度の考え方と特徴」『海外社会保障情報』No. 98, Spring 1992（上），No. 99, Summer 1992（下））。しかし，私はイギリスの社会保障の研究者と自ら認めたことはない。これは2年間の留学の結果，私には語学の才能がないことを深く自覚し，外国よりも日本の社会保障の研究に重点を置くと決めたからである。私は，このことを自分が音痴のせいであるからと，勝手にこじつけて納得している（なぜならば，外国人の発する音に対する感度が鈍いのは，音痴のためであると思い込んでいるからである）。

留学は英語の上達には役に立たなかったが，社会保障を研究する上では大いに役に立った。特に社会保障の研究について，歴史の経験に学びながら社会における実態を踏まえて論ずるというイギリス流の方法論は，私の論文執筆のモデルとなっている。これは，アメリカ的なマクロ経済モデルによる経済分析的な方法とは異なる研究方法である。また，我が国における社会政策・社会保障研究の一部に残っている「資本主義の経済法則」などという19世紀の社会経済をモデルにした理論や，「国独資（国家独占資本主義）理論」という観念的で実態に合わない理論に基づく研究とも異なっている。

私は思いもかけず研究者になる道を選ぶこととなったが，イギリスでの研究がこれほど役に立つとは考えもしなかった。こういうことなら，もう少し熱心に学んでおけばよかったというのが，現在の率直な感想である。

（ほり・かつひろ　上智大学教授）